

小山村白石明神しらいしみやうじん

若宮八幡わかみや ばちまん

〔音羽村おとほにあり、此所の生土神とす。例祭は九月日は年によりて替りあり。祠の傍に古墳あり土人王塚と

いふ〕

白石明神社はくせきみやうじんやしろ

〔小山村こやまにあり。東の山の下に一つの白石あり、其側に社あり。是則白石明神なり〕

白石菴はくせきあん

〔同所にあり。河東祇樹げんとく一源統げんとう禪師行状云、禪師諱は会統ゑとう、字は一源げん、肥後ひごの人なり、菊池藤氏きくちとうに誕す。戊寅の春小山に卜居して終焉の許とす、白石の神祠に隣る故に白石菴といふ〕

蓮如上人墳れんによしやうにんのつか

〔山科本願寺やましなほんぐわんじ旧地の西にあり。一水記云、享祿五年八月廿四日山科本願寺にて合戦し、早日已刻許に攻落す。抑本願寺は四五代に及んで寺中広大無辺にして嚴莊只仏国の如し。今日一時に滅亡す〕(長亨記同之)

九月十三夜月おもしろかりければ東山ひがしやまを見て

大宅や山科やましなつゞく小野山をのやまのひかりくまなき庭の月陰

蓮 如上人

実如上人墳（同所東野村のひがしにあり。実如上人は本願寺第九代にして蓮如上人の八男なり。光兼法印権大僧

都大永五年二月二日遷化す

奉贈日本山科実如老上人

上人德行是問何。一箇禪門大丈夫。心裏要容天外善。此生渾似竹中虚。

大明正徳八年五月

杭州鉄冠道人 ■ 仲和

大明 ■ 仲和みづから竹の画を書、実如上人を賞するの讃なり、今西本願寺の宝蔵にあり。大明正徳八年は日本永正十

年に当る